

名前：

現代社会はインターネットが高度に発達した社会であり、政治経済から娯楽に関することまで手軽に情報入手が可能になった。その影響か、新聞離れが進行しているとの説もある。それでは、本当に新聞はもう不必要なのだろうか。

確かに、インターネットニュースは新聞や雑誌に比べて更新がはるかに速く、最短で情報を得ることが可能である。一方の新聞・雑誌は発行日まで情報を待たなければいけないというデメリットがあるだろう。しかし、新聞・雑誌の存在意義は情報入手の手段にほとんどまわらないはずである。

新聞や雑誌に掲載されている主なものは政治経済に関する情報、エンターテインメント情報、投書、コラムなどである。このうち、政治経済・エンターテインメントはインターネットニュースやテレビでも収集可能な情報である。ところが、インターネットニュースにはコラムや投書といった意見文の類はあまり見

られない。情報を入手できればそれ以上のことは必要ない、と考える人もいるだろう。しかし、活字離れが進む現在では新聞の意見文は活字に接する最も身近なものである。日頃から活字に慣れ親しんだ人は文章能力も活字に接する状況下にない人よりも高い。その上、新聞の投書や社説は何らかの問題意識を持って書かれたものである。それらに直に触れることによって、自らの世間に対する問題意識が徐々に養われていくはずである。何の問題意識も持たず、更新されていく情報をただ受動的に受けとってあまり意味はない。自らの一定のビジョンの下、主体的に情報を摂取してこそ与えられた情報は生きてくるのである。

以上のことから、新聞や雑誌は単なる情報収集の手段ではなく、情報を生かすための目線を提示するものである。インターネットが発達した現在でも必要であると私は考える。

1800字